



平成29年度 第3回一橋大学政策フォーラム

ロシア研究センター開設10周年記念企画

経済制裁下プーチンのロシア

ロシアが2014年、ウクライナ南部クリミア半島を編入したのを機に始まった日米欧による経済制裁。4年が過ぎた今も解除の道筋は見えない。経済制裁下のロシアで今何が起きているのか。一橋大学は1月19日、ロシア研究の第一人者が議論するフォーラムを開催、ロシアの実情に迫った。



【出席者】パネリスト（右から）横溝佐登史、兵頭慎治、仙石学、岩崎一郎、雲和広、コーディネーター（左端）安達祐子 各氏

地政学的に重要性増す「ロシアのいま」

企画趣旨



一橋大学 経済研究所教授
同所ロシア研究センター
主任 雲 和広氏

講演1

ロシア経済のいま―成長戦略の行方



京都大学
経済研究所所長
溝端 佐登史氏

一橋大学政策フォーラムは各分野の第一人者、政策の最前線の人たちの討論を経た研究成果を研ぎ澄まされた政策として発信するのが目的。

今回は「経済制裁下プーチンのロシア」をテーマに、マクロ経済、国際関係、外交、内政、家計行動、企業活動といった側面でのロシア研究の第一線で活躍する方々を招いた。同国の内政・経済・対外関係に焦点を当て、日本にとって地政学的な重要性が増している「ロシアのいま」を議論する。

楽観論と悲観論が並存

ロシア経済を説明する際、適応」という言葉がよく使われる。経済制裁が続いているが、国際通貨基金（IMF）、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行、格付会社の評価は比較的ポジティブでロシアは現状に「適応している」という。一方「ロシアは危機だ」との見方も根強い。楽観論と悲観論が並存する分、かなりにくい状況だ。ロシアはミッドリアスな構造を持つ。豊かな資源国である半面、貧しさの問題もいる。ロシア」が課題といえる。

楽観論と悲観論が並存

ロシア経済を説明する際、適応」という言葉がよく使われる。経済制裁が続いているが、国際通貨基金（IMF）、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行、格付会社の評価は比較的ポジティブでロシアは現状に「適応している」という。一方「ロシアは危機だ」との見方も根強い。楽観論と悲観論が並存する分、かなりにくい状況だ。ロシアはミッドリアスな構造を持つ。豊かな資源国である半面、貧しさの問題もいる。ロシア」が課題といえる。

講演2

中東欧からみたロシア―脅威かパートナーか



北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター長
仙石 学氏

ロシアへの経済制裁を限定的にしているのは中東欧諸国だ。欧州連合（EU）と北大西洋条約機構（NATO）の両方に加盟する11カ国で、1990年代後に「体制転換」を経験し、民主主義と市場経済に依拠する体制になった。

ロシアが旧ソ連諸国に拡張し始めたきっかけは、2008年の南オセチア紛争だ。軍管区の再編、軍事費の増額、NATOの侵攻を想定したベラルーシとの共同演習などを経て、クリミア併合、ウクライナ東部への侵攻が行われた。

対口政策、協調は困難

中東欧の中にも「親露」「嫌露」があり、ロシアに対する対応は一枚岩ではない。バルト諸国とポーランドはロシアを脅威と感じ、NATOの積極的な関与を求めている。他の国はロシアとの経済関係を重視した現実路線を歩む。米戦略国際問題研究所（CSIS）は、ロシアは中東欧に侵入し、その手段は政治的浸透と経済的浸透で、一部の中東欧諸国においては成果をあげている。ロシアを巡る利害対立があることが、中東欧やEUが一体となってロシアに対抗することを難しくしている。

ラウンドテーブル

国際社会と対峙するロシア―外交・社会・企業―

●出席者●

- ▽兵頭 慎治氏 防衛省防衛研究所地域研究部長「経済制裁下のロシア外交―米国、中国、日本との関係を中心に―」
- ▽雲 和広氏 「ロシア世論調査に見る政治的姿勢」
- ▽岩崎 一郎氏 一橋大学経済研究所教授「ロシア企業への制裁効果」
- ▽コーディネーター
- ▽安達 祐子氏 上智大学外国語学部教授



兵頭慎治氏



岩崎一郎氏



安達祐子氏（コーディネーター）

安達 「国際社会と対峙するロシア」をテーマに議論したい。

兵頭 ロシア外交を突き詰めるとプーチンの本音を考えなければならぬ。多極化する世界は、地政学リスクの増大に伴い、世界の重心は、欧米・中東からアジアへ移りつつある。

ロシアが考える多極世界は、「米国」「統一欧州」「インド」「中国」と自国だ。ただ、国内総生産（GDP）で見るとロシアは欧米の10分の1、中国の6分の1にすぎない。対欧米という観点でロシアは中国と連携せざるを得ない。米欧中印露からなる多極世界において欧米から中国へのパワーシフトが進んでいる。

一方、日中間の対話は強化されている。アジア太平洋の安全保障の観点からロシアは、安全保障面での関係強化に意欲的だ。日本も東アジアの安全保障環境が厳しいう中、関係を正常化していきいたい立場だ。

雲 対口経済制裁下で、人々の主観的な幸福感と現在の政治状況に対する支持について世論調査を検討した。全ロシア世論調査センターの集計データによれば「現在のロシア経済全体に対する評価」として、2015

年後半以降は、個人レベルでも「極めて否定的」「否定的」との回答が合わせて51.6%、EU債務危機は36.8%、ロシア経済制裁については46.4%だった。

プーチン氏支持については、17年度末でも80%を超えるなど安定し、政権も高い支持を得ている。マクロ経済の落ち込みはロシアの人々も感じているが、政治面への支持は極めて強い。

マクロ経済の悪化自体は、政権からの心理的離反を決定的なものとはなかった。経済制裁、原油価格低迷に絡む経済活動の低下は底を打ったとみられ、短期的に経済状況や政治状況が極端に悪化するとは思えない。直近3年間は体制の強固さが確認された時期にすぎないだろう。

岩崎 「対ロシア制裁の影響は限定的」という見方がある。マクロ経済指標を見ればそのとおりだが、ところがマクロ経済指標と市民感覚の乖離（かいり）が非常に大きい。企業レベルで

パネルディスカッション 制裁下のロシアを見る眼

安達 対ロシア制裁は今後も続くと思われるがプーチン政権はどう対応するのか。市民生活・価値観の動向もロシア企業活動はどうなるのか。

溝端 経済制裁だけでなく、極東でのプロジェクトが増え、インドとのつながりが注目されている。

仙石 制裁はEU分断を深めた。ロシアの対応は変わらな

経済に大きな影響を与える。制裁のレベルも対北朝鮮制裁とは別次元だ。政策では国産比率を高める動きがあり、この1年はインベシジョンを重視している。輸出戦略とも結び付くなど、従来と違う動きがみられる。生活面での制裁の直接的影響は限られる。予備基金が枯渇するなか、国家補助が期待できるのが問題になる。制裁が長引けば不満が出てくる。制裁に伴い、極東でのプロジェクトが増え、インドとのつながりが注目されている。

内容ではない。1990年代のソ連崩壊直後の混乱を体験している世代も多く、今の状態がそれほど悪いとは思っていない。2011年ごろに反プーチンという政治手段に利用されている。内政課題を反欧米に転嫁し、国民の不満の矛先をそらす目的だ。ただ、次期政権でも奏功するかは疑問だ。3月の

と仮定すれば、経営体制を委ねるソ連崩壊直後の混乱を体験している世代も多く、今の状態がそれほど悪いとは思っていない。2011年ごろに反プーチンという政治手段に利用されている。内政課題を反欧米に転嫁し、国民の不満の矛先をそらす目的だ。ただ、次期政権でも奏功するかは疑問だ。3月の

影響力を強めていこうという意図を感じる。

安達 中口関係や対欧米強硬政策についてどう見ますか。

兵頭 経済制裁前から中口の軍事的連携はあったが限界が見える。中国の広域経済圏構想「一帯一路」が打ち出されたときにロシアも警戒した。将来的には飲み込まれる懸念はある。

対欧米強硬政策は政治的レトリックと考えている。もしNATOと事を構えたら核戦争になる。そこまでしてバルト3国を

国産比率重視、極東・インドに進出 制裁は効果なくEU分断が深化 欧米強硬政策は政治的意図

溝端氏
仙石氏
兵頭氏

2000年代よりも幸福度は高い 企業は変化のチャンス逃している

雲氏
岩崎氏

大統領選挙でプーチン氏が再選すれば憲法規定上、24年までが最後の任期になる。後半は内政にシフトするだろう。

ウクライナやシリアへの介入でプーチン氏は支持率を上げたが次の目標は見当たらない。北朝鮮には決定的な影響力を持たない。行き過ぎた反米親中路線を修正したいのが本音ではないか。次の6年の政権運営は厳しいだろう。

雲 ロシアへの経済制裁は国民の生活を揺るがすような厳しい

再び併合はしないだろう。強硬政策はEU分断という政治的目的が多分にあり、それなりに成果はあった。今はアジアに目を向ける余裕が出ている。

仙石 バルト3国への軍事行動には出ないだろう。できるだけ親ロシア国を増やし、EUでの危機といえる。



「経済制裁下プーチンのロシア」というテーマで大変活発な議論ができた。一橋大学経済研究所のミッションは、日本と世界経済の総合的研究だ。このミッション追求のための大きな役割を開成10周年を迎えたロシア研究センターが担っている。多くの人にロシアのことは一橋大学経済研究所に聞いてみよう」といって認識を深めてもらいたい。議論を聞いて印象に残ったのは、ロシアは様々な研究者が多様なバックグラウンドからネットワークを組んで研究すべき対象だということだ。ネットワークづくりの中核として一橋大学経済研究所が貢献できればいい。

閉会の辞

一橋大学経済研究所所長
小塩 隆士氏